

ガリ勉みらいプロジェクト 2015  
—名古屋YWCA「ガリ勉クラブ」の就労日本語支援—

上村 桂恵子 (公益財団法人名古屋YWCA)

1. 実践の場の特徴

1.1. 「ガリ勉クラブ」

- ・外国につながる子どもの日本語支援教室
- ・小学高学年から高校生まで約60人在籍
- ・スタッフ約45人

1.2. 活動の経緯

当教室は2011年度文化庁委託事業として開始し現在に至るまで生徒のニーズにあわせ支援の幅を広げてきた。初期には中学生支援の中で進学が大きな壁であることから高校進学支援に力を入れ、続いて、進学した生徒がドロップアウトしないよう高校生支援に目を向け、そして学齢超過生の増加を受けた支援へと、子どもたちが日本で教育を受ける機会を逃すことがないように支援を提供している。

1.3. 企画意図

- ①中学校実施の職場体験の経験がない外国人の子どもにキャリア教育を行う
- ②仕事の日本語や敬語を、座学に加え、教室外活動の実体験を通して学ぶ
- ③進学基準を日本語力だけでなく、将来の進路を意識し夢を描いて決められるようになる
- ④定住化傾向にある外国人生活者家族と日本の社会を繋げる

1.4. 対象生徒

日本語レベル初中級の高校生と学齢超過生15人。国籍：フィリピン、中国、ネパール、パキスタン、インドネシア

1.5. 目標

「生きる力」を養い、社会の一員として就労や社会活動に必要な知識や経験を体得させると共にコミュニケーション力を高めること

2. 実践内容

2.1. 全体スケジュール

項目	内容	人数	日程
ボランティア体験①	名古屋国際センター「絵本の広場」	8人	2015/8/1・2
ボランティア体験②	名古屋YWCA「バンビーナ子ども広場」	8人	2015/9/27
ボランティア体験③	名古屋YWCA「秋のバザー」	13人	2015/10/9
仕事の日本語I	ビジネスマナーや敬語など	11人	2015/10/25
ハローワーク見学	外国人雇用サービスセンター見学	15人	2015/11/5
職場体験①	コンビニエンスストア	3人	2015/10/29
職場体験②	美容院	2人	2015/11/11
職場体験③	きしめん工場	3人	2015/11/17
職場体験④	美容院	2人	2015/11/18
職場体験⑤	保育園	1人	2015/12/9
職場体験⑥	工業大学ものづくりセンター	3人	2015/12/14
職場体験⑦	労働金庫	5人	2015/12/25
職場体験⑧	卸売市場	3人	2016/1/13
仕事の	復習・ふりかえり	10人	2016/

日本語 II	と職場体験発表		1/17
-----------	---------	--	------

### 2.2.1. ボランティア体験

目的：働くこと、社会に役立つ人材への第一歩として①②③のボランティアを提案

内容：会場設営、会場係、チャイルドケア、お菓子作り、物品包装・販売、片付けなど  
生徒の声：

楽しかったこと	大変だったこと	他にやってみたくらいこと
子ども達に本を読んだこと	緊張したこと	映画のナレーション
いろんな人との会話	特になし	できることならなんでも
菓子の生地を伸ばしたこと	お皿洗い	中国語を教えたい

### 2.2.2. 仕事の日本語 I

目的：働くための知識やルールを学ぶ

内容：生徒たちの先輩であるペルー人講師から、国籍条項・在留資格と仕事について、ビジネスマナー、敬語などを座学で学ぶ

### 2.2.3. ハローワーク見学

目的：ハローワークを知り自分で仕事探しができるようになる

内容：ハローワーク外国人雇用サービスセンターを見学し求人票の見方を学ぶ

### 2.2.4. 職場体験①-⑧

目的：職業観、勤労観、社会の一員としての自覚や責任感の育成と、職場の日本人とのコミュニケーション体験

内容：職場見学と体験。体験前にそれぞれの仕事について調べ、履歴書を作成。体験後にはお礼状と体験レポートを作成

生徒の声：

職場	勉強になったこと	反省点
きしめん工場	仕事にルールがたくさんあることを知った	挨拶と返事の大切さ
美容院	接客用語と敬語	遅刻

ものづくりセンター	ケガをしないよう作業すること	わからないと言わなかったこと
-----------	----------------	----------------

### 2.2.5. 仕事の日本語 II

目的：プロジェクトのふりかえり

内容：サービスの敬語の応用編を学ぶ。グループごとに職場体験発表を行う

## 3. 考察

### 3.1. 目標の達成度

- ・仕事の日本語や敬語を実践の場で学ぶことができた
- ・職場体験から実際に働くことになった、ハローワークで仕事を探して短期アルバイトを経験したなど、学校と仕事の両立が現実となった
- ・社会におけるルールの大切さを認識し、約束が守れるなど、意識の変化が見られた
- ・進学や就職に対する自信、将来への期待や自己肯定感が向上した
- ・地域の企業に外国人生活者に対する理解を得ることが出来た

### 3.2. 課題

- ・参加する子どもたちが約束やルールを守ることが難しい
- ・教室の先生以外の一般の人の話を理解することが難しい
- ・意欲のない生徒に対する働きかけが難しく、全員が職場体験をしたいわけではない
- ・生徒が体験したいボランティアや職業とのギャップ

### 3.3. 実践の意味と今後の展望

日本人の子どもが当たり前のように知っていることを知らない外国にルーツを持つ子ども達にとって、ボランティア体験、職場体験は社会と繋がるきっかけや自信となり、有意義な活動であった。教科書や教室では学ぶことができない日本語学習としても意味深く、2016年度は下級生も含めガリ勉クラブ全体で「みらいプロジェクト」を行う。